

病虫害防除の活動(1)

リレ一随筆

北海道病虫害防除所の活動

(北海道病虫害防除所所長 おぎまさきはる 尾崎政春)

北海道では1956(昭和31)年以降、発生予察員が全道の農業試験場に配置されたのを契機に、病虫害に関する試験研究体制の強化が進み、今日に至っている。

北海道病虫害防除所は、1991(平成3)年に独立機関として道立中央農試に併設された。それ以前は、道立中央農試病虫部発生予察科が主体となって業務を推進してきた。

1 組織の現状

北海道における発生予察事業は、防除所職員(所長1名、次長1名、研究員5名、事務職2名)、道立農試と道立花・野菜技術センターの研究員(合計27名)、および、病虫害担当の専門技術員(4名)が、強く連携して推進する体制をとっている。

また、14の支庁に防除所の支所を設置し、防除所業務のスムーズな運営を期している。

2 活動の内容

(1) 定点および現地調査

予察定点は地図(図-1)に示したように、合計7地点に設置している。調査対象作物数は16、調査対象病害虫数は94と非常に多い。これは、水稻や畑作物に加え野菜や花きも予察の対象になったことによる。そのため、各農試等では予察員に発令されているかどうかに関係なく、病虫害担当研究員が全員で調査に当たっている。

巡回調査は発生状況を把握して、以後の発生を予想するために重要で、12作物の39病害虫を対象に各支所が担当することとしている。しかし、調査対象作物・病害虫数が多いことから支所の予察員のみでの対応は困難なため、地域の農業改良普及員が現地から収集した、発生状況に関する情報を提供願うシステムの構築を考え、1998(平成10)年度から試行している。

現況調査は各年度の発生程度別面積の集計に欠かせないため、防除員、地域の農業改良普及センターや専門技術員が協力して集計にあたっている。

(2) 情報の収集と提供

定点調査の結果や巡回調査の結果は、直ちに電子メ

ールで防除所へと送られる。防除所ではこれらの結果や気象予報等に基づき、発生予報や注意報等の情報を作成し、電子メールで関係機関に向け発信する。防除所が発信するすべての情報は、HAO(北の農業情報広場、Hokkaido Agriculture Online)に設けたホームページで閲覧が可能で、各定点の調査結果はHAOのネットワークで公開(ただし、支所、農業改良普及センターおよび農試等のみを対象)し、地域の発生予報を考える際の参考に供している。

なお、HAOに開設している防除所のホームページには、年平均で1,600件以上のアクセスがあり、多くの関係者に予察情報が活用されるようになってきている。

(3) 地域サービスとしての病虫害の診断

水田の減反政策の進行と同時に野菜や花きの作付けが急激に増加したことから、各方面からの診断依頼も増加し、年次による増減はあるが全道で1,000件に達している。北海道では、このような需要に応えるため、1975(昭和50)年から「病虫害診断試験」にかかわる経費を経常費的に計上(ただし額は少ない)している。これら診断依頼を受けた病害虫の中には、北海道での新発生や新寄主と認定されるものが多く、その数は毎年20種類を超え、近年は府県から移入したと考えられる病虫害の発生確認例が増加している。

このように、病虫害の発生状況把握のための網を大



図-1 予察定点の設置場所

①道南農試(大野村)、②防除所(長沼町)、③中央農試(岩見沢市)、④花・野菜技術センター(滝川市)、⑤上川農試(比布町)、⑥十勝農試(芽室町)、⑦北見農試(訓子府町)。

The Activity Plant Protection Office in Hokkaido. By Masaharu OZAKI

(キーワード: 発生予察事業, 北海道)